

～市民とともに 栗東をよりよいまちに～

市民参画と協働による

まちづくり通信



くりちゃん



元気創造
まちづくり事業
RITTO GRANT



未来へつなぐ
市民活動応援事業



No.124

令和7年12月8日発行

《問合せ》自治振興課 自治協働係

TEL : 551-0290

(内線: 3520)

FAX : 551-0432

メール : jichishinko@city.ritto.lg.jp

「これから活動を始めたい！」
「活動せているけどうまく軌道に乗らない・・・」と感じて
いる方や団体にぜひ読んでいただきたい内容です！

今回は、市の助成金を効果的に活用したモデルケースとして「シニア子育てサロンぽっけ」（以後、ぽっけ）を紹介します。ぽっけは栗東100歳大学を卒業したメンバーで立ち上げ、市の助成制度を6年間活用し、令和7年度で助成金を卒業する予定です。

ぽっけは、なぜ助成金を卒業することができたのか？

ぽっけの代表である松江由多加さんにお話を伺いました。

市：松江さんは100歳大学を卒業してすぐにぽっけを開始したのですか？

松：100歳大学の時から構想があり、2年間私以外のメンバーで準備を進めていた。実は私以外のメンバーは女

性で子育て経験もあるが、なかなか始められなかつた。それは子どもを預かることが怖かったからだ。私が代表をするので始めようと言つてスタートした。今では分かるが、その当時は、子どもを預かるということがどういうことか、私だけ分つていなかつた。私は子育てをほとんどしてこなかつたので始めることができた。ぽっけを始めてどうでしたか？

市：今はみんなに顔つきがすごく変わったと言われる。最初は恐る恐るだったが、他のメンバーだと泣いている子供も、私が抱っこすると泣き止むと嬉しくてたまらなくなつた。自分の家族には、「今頃子育てに夢中になつて……」と笑われている（笑）

市：助成制度を活用されてみてどうでしたか？

松：感謝している。毎年、課題を与えられてステップアップすることができた。例えば、助成金の審査で、メンバーだけでやろうとせずいろんな団体と連携しながら、活動するように言われ、別の団体（Fun Fan Harmony 他）と積極的に交流するようにした。ここにある遊び道具はほとんど、そうした団体のメンバーから預いたもの。それまでは何にもなかつた。また、次の年の審査では、助成金の多くを活動場所の賃料に充



代表 松江 由多加さん

活動の様子



てていたが、なぜお金がかかる場所で活動しているのかと問われて、確かにその通りだなと思った。コミセンを借りればもっと安く運営できる。今の場所から移ろうかとオーナーに相談したところ、協力するからこの場所で続けたらどうかと言つてもうれた。市の助成をもうつて活動しているから信頼してもらえたといろもあると思う。

市：3年の間、毎年20万円の助成金（注1）を活用されて、その後ふるさと納税を活用した助成制度（注2）にチャレンジされました。どちらはどうでしたか？

松：自分が働いていたころの知り合いで寄附のお願いに行つた。その中で、ありがたいことに、ふるさと納税を介さずに寄附していたところ申し出を受けた。

けじやなくて、スタッフの居場所になり、刺激にもなっている。今後は、自分の楽しみだけではなく、色々な形で地域がつながり、そこから、子育て支援に限らず新しいものが出てくればいいと思っている。社会のもっと役に立ちたい。

市：ぽっけの今後が益々楽しみです。松江さん、ありがとうございました。

今回取材させていただいた、概して思い通りにはいかないこと、助成制度には資金以外の効果があること、積極的に地域のつながりを作りながら改善に取り組んだ結果、ぽっけの活動の土台が出来上がったことがよく分かりました。

団体の立ち上げ、助成金の活用、自立に向けた取組みなど、ぜひ参考にしてみてはいかがでしょうか。

ぽっけも活用された市の助成制度を紹介します！

（注1）「元気創造まちづくり事業」は立上げ支援を目的とした助成制度です。年間上限20万円の助成金を最大3年間受けることができます。

（注2）「未来へつなぐ市民活動応援事業」はふるさと納税を活用した自立支援を目的とした助成制度です。採択されると3年間支援希望団体に登録され、寄附を募ることになります。

※これら助成金の取得には、審査会にて助成団体として採択される必要があります。詳細は本記事上部にあるQRコードよりどうぞ確認ください。

